

JAL愛媛原告を支える会



ニュース



発行：JAL不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F 愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 Tel 089-945-4526

私も
応援
しますJAL・社保庁のたたかい
全労働者のたたかい

猪森 春枝

私は自分の生き方として、「仕事を通じて社会とかかわりたい」という思いで結婚しても出産しても働き続けてきました。そして、この3月末で47年間働き続けてきた職場を去りますが、元気に働き続けられたことは本当に幸せなことだと感じています。

JAL不当解雇撤回裁判原告の方の、「自分で自分の人生を選択できない悔しさに震えた」との言葉に、「働き続けたい」という人間として当たり前の生き方を奪うことを許すことなど出来ないと強い憤りを覚えました。

先日、最高裁は、まともな審理さえ行わず、上告棄却の不当な決定を出しました。私はこのことを黙って見過ご

すことはできません。私が働き続けたのは、職場に労働組合があり県国公や愛媛労連に結集し、地域の女性団体と共同し、働き続けるための条件整備等にとりくんできたからです。

JALや社保のたたかいは、全労働者の人権と雇用を守るたたかいです。

私の小さな力では大したことはできないけど、仲間とともに不当解雇撤回まで私のできることでこのたたかいに参加していきたいと思っています。

小さな力でもそれが集まれば大きなうねりとなって「安心して働き続ける社会」に変えることができると信じて・・・

う。女性裁判官が含まれていたにも関わらず、女性が働く権利を拡大してきた原告達を一顧だにしなかったのは心底許せない。まるで、これ以上運動が広がるのを恐れて無理矢理幕引き

したようだ。司法が政財界に飲み込まれてしまったら労働者は提訴しても無駄と言うことになる。日本航空に天下りしていた元最高裁判事は今回の上告棄却決定を待っていたかのように取締役を退任することが決まった。その報酬は如何許りか？このような理不尽な事がまかり通って良い筈がない。

2010年大晦日に解雇されてから5年目。やってはいけない解雇だった事を事実が証明している。職場は、ものが言えず暗くなり退職者が止まらない。どこも慢性的な人手不足。新人が3人に1人と言う由々しき事態で不安全事故が日々起きている。それでも私達を職場に戻さないのは、この解雇が不当労働

行為として強行された証である。「空の安全」の基盤を取り戻すためにもっと運動を上げ、更に強くJALに解決の判断を迫って行きたい。

皆様の一回り大きいご支援を心からお願い申し上げます。



2.18 JAL・社保庁合同宣伝後の原告団と支援者
(松山市駅前)

働くものを見捨てた

最高裁の不当判決

憲法76条3項には、次のように記されている。【すべて裁判官は、その良心に従ひ独立してその職権を行なひ、この憲法及び法律にのみ拘束される】

2月4、5日に出された最高

裁の上告棄却決定は、この定めを最高裁自らが蹂躪してしまっ

たと言える。更生会社の下で更生計画と憲法に定める労働者の

権利とどちらが優先されるのか初のケースであり慎重に審議さ

れるべきであった。にもかかわらず、客室乗務員については4

ヶ月足らず、パイロットは3ヶ月未満と言う異例の速さで結論

が出された。実質審議など行われていなかったろう。しかも異

論を唱える裁判官が一人もいなかったと言ふ事実は、司法の後

進性を如実に表していると思う。女性裁判官が含まれていた

にも関わらず、女性が働く権利を拡大してきた原告達を一顧だ

にしなかったのは心底許せない。まるで、これ以上運動が広

JAL不当解雇撤回原告団
松山市在住 林 恵美

感動連帯涙!



チケット収入と会場でのカンパは、JAL・社保庁争議団に支援カンパとして渡されました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます

とりわけ、国鉄闘争を自らもたたかい、仲間への思いを込めたナツパーズのうたごえには、争議団を含め参加者全員が感動に包まれ、これからのたたかいの決意と連帯を深めました。

3月1日に愛媛大学南加記念ホールで開かれたJAL・社保庁不当解雇撤回闘争支援の春を呼ぶうたごえの集いには、JALパイロット原告団長の山口宏弥さんが訴えに駆けつけたほか、国鉄広島ナツパーズと三津ギターアンサンブルが友情出演し、不当解雇とたたかうJALと社保庁の仲間を包み込むうたごえと音楽を会場に響かせました。

3月1日 春を呼ぶうたごえの集い

うたごえの仲間の呼びかけで準備された春を呼ぶうたごえの集いは、文字どおり、共にたたかい、仲間を思う感動と連帯のひとときとなりました。

JAL・社保庁不当解雇撤回 春を呼ぶうたごえの集いアピール

私たちは、今日、JAL・社保庁不当解雇撤回 春を呼ぶうたごえの集いに参加し、JALと旧社会保険庁による国家的「首切り」に毅然とたたかう仲間と、彼らを励まし連帯する音楽とうたごえに接しました。

この二つの解雇は、まじめに働く者の生きる手段を道理なく奪うもので、彼らと同じ地域でともに働き、生活する私たちにとっても、到底許せない出来事です。しかし、彼らのたたかいは道は険しく、JALの不当解雇撤回を求める裁判では、つい先日、最高裁判所がまともな審理さえ行わず、上告棄却の決定をしました。かたや、旧社会保険庁の分限免職撤回を求めるたたかいかでも、公正を期すべき人事院が、正当な理由もなくその是正措置を行わず、いまだ、労働者と家族の生活のみちをさえぎっています。

こうした仲間と連帯する音楽とうたごえは、困難にめげず、背筋を伸ばして毅然とたたかう仲間を包み込むとともに、周りの私たちにも、連帯してともに足を踏み出す元気を与えてくれました。

うたごえの集いに参加した私たちは、改めて、この理不尽な解雇に強い憤りを発信するとともに、解雇自由の社会を許さないため、一日も早い解決を求めます。そして、この連帯が、今日のうたごえのように響きわたり、さらなるたたかいの前進につながることを願ってアピールを表明します。

2015年3月1日

JAL・社保庁不当解雇撤回春を呼ぶうたごえの集い参加者一同